日刊 動労千葉

82.2.26

No.978

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

『働こう運動』は国鉄35体制を容認する運動だ！

「『働こう運動』は、動労にできない。『働こう運動』を国鉄労働者全体のものにしてゆく……。」（動労『職場討議試案』より）

この反動性をむき出しにした、「本部」革マル分子を許すな！

動労「本部」革マル反動分子は、『国鉄問題に関する動労の考え方』＝第一一五回定中委にむけた『職場討議試案』の中で、動労全組合員にむかって、「今の厳しい情勢下では、もはや、『働こう運動』しかないんだ」ということを再三再四くり返して、反動的な方針を組合員に強制しようとしている。　動労千葉は、全国の闘う動労組合員に心から訴える。　彼らが今、強引におし進めようとしている「働こう運動」こそ、まごうことなき動労の産業報国会への歴史的転落であり、組合としての動労の死である。こんな〃方針〃を何の抵抗もなく受け入れてしまうようになった時、その時動労は完全に革マル反動分子への翼賛団体へと完全変質をとげる時だ。

3月5～6日、第一一五回定中委において、この超反動的〃方針〃を断固として拒否し、闘う動労の伝統を守り、動労大改革、国鉄35万人体制攻撃粉砕にむかって共に闘いぬこうではありませんか。

「働こう運動」は、35万人体制攻撃をはじめから容認するもの

動労「本部」革マル反動分子は、『考え方』の中で、「働こう運動」について、次のように位置づけている。

① 「35万人体制反対」を明らかにしつつ、現実問題としては、「25万人体制反対」「民営・分割反対」として闘う。

② 「35万人体制」以上には（合理化を）やらせないという防波堤をこちら側から打ち出すことが必要である。

つまり、〃もはや、35万人体制攻撃は防ぎようがない。ならば、この35万人体制に組合の側から率先して協力し、国鉄当局と一致協力＝一体関係を築き、「少い人数で最もよく働く国鉄職員」というふうにしていけば、第二臨調等がいう「民営・分割」への攻撃に対して〃防波堤〃（?!）とすることができる〃――と言うのだ。

全く、あきれはてた屈服－敗北思想であることか！こんな奴隷根性で国鉄当局に尻尾をふって身をすり寄せ、こびを売ることで、今日の国鉄労働者にかけられてきている攻撃に「歯止め」がかけられるというぐらいなら、そもそも労働組合などわざわざ結成する必要などないではないか。これは、労働者はなぜ労働組合を結成し闘うのか、に関する最も大切な原則中の原則にかかわる問題である。

この根本原則をぬりかくして、あたかも「一時的な戦術上の選択」又は「方法論の一つ」であるかのようにそおうのは、全くのペテンである。

このようなデタラメでペテン的な〃方針〃をどうして認めることができようか。

組合員をドウカツし、生産点での闘いを禁圧する「本部」革マル分子！

さらに、『考え方』は、つぎのように組合員にむかってドウカツとペテンをくり返しくり返し行っている。

① これまで大変追いつめられた気持で「安定輸送宣言」をやり、国会でも「国鉄の必要論」を訴えてきた。

② しかし、それでもダメだった。もう最後の水際だ。

③ だから「働こう運動」をやる以外にない。

④ 同じ「国鉄のお家断絶」（なんというズブズブの体制側的思想であることか!!）なら、不退転の決意で断絶に報いる。

⑤ 職場抵抗闘争やストライキで闘うことは敵の思うつぼにはまる（なんという発想か!!）ことであり、闘うべきではない。

つまり、「外注化」「国鉄25万人体制」－民営・分割」という〃国鉄のお家断絶〃に対し、「不退転の決意」で「働こう運動」をやって「2～3割の働き度を高め」、動労の方針として「ある程度の人べらしを組合側からもうち出す」ことによって「資本主義体制と国鉄を守ることによって、われわれの職場と仕事を確保する」路線をとろうと言っているのである。

この『考え方』こそ、恐るべき国鉄企業防衛思想であり、愛国主義である。

今日、「日本は経済的にも軍事的にも大変な脅威にさらされている！」とあおり立てて、露骨な軍事大国化・改憲攻撃を強め、賃下げ・福祉切り捨て、耐乏生活を強要し、戦争への道を突き進んでいる日帝・支配階級に率先協力するものだ。動労四万五千組合員のみならず全労働者を産報運動に引きづり込み、再び「国鉄のため」「国のため」として戦争へかり立てる、恐るべき運動に他ならないのだ。

組合指導部自らが「攻撃が厳しい」「冬の時代、まっ暗……」等々と最大限の泣き事を並べる暇があるなら、なぜ今日かくも敵になめられっぱなしの、雪崩うつ大攻撃に翻弄されなければならないのか、「自らの指導路線」の反省－総括をこそ今やるべきなのだ。4年前、わが動労千葉が激しく弾劾し正しく指摘した事、すなわち「安定宣言路線の思考こそ敗北・転向への道。更なる大攻撃へのよび水」と拒否を訴えた事の歴史的な正しさが、こういう形をとって今日鮮明につき出されてきているのである。全ての動労組合員の皆さん！「働こう運動」＝「動労の提言」を断固として粉砕し、革マル反動分子追放・一掃、動労大改革へ！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！